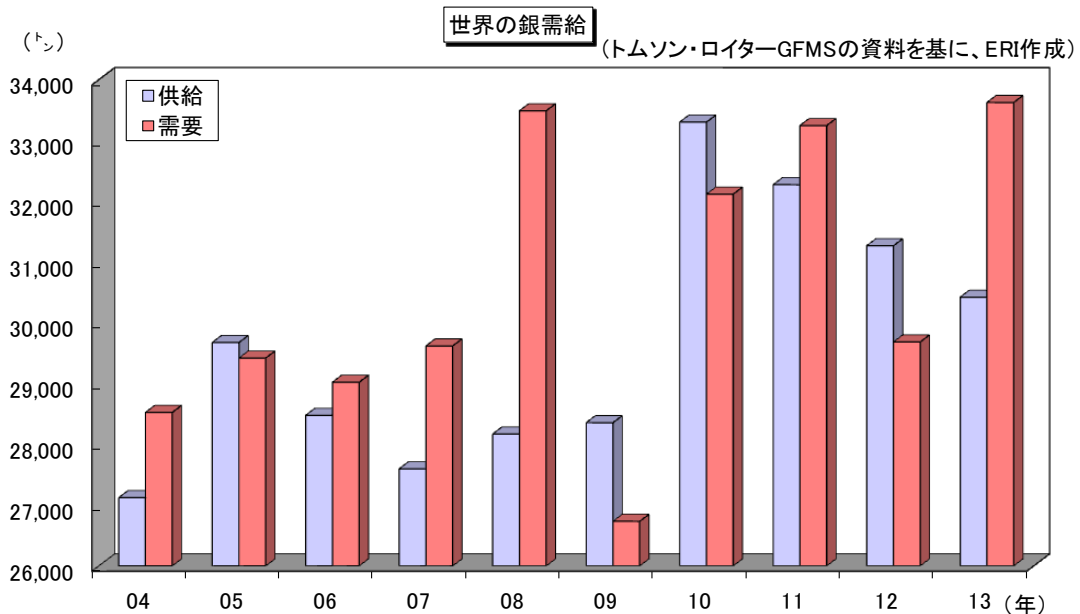


## 銀需要が過去最高を記録！

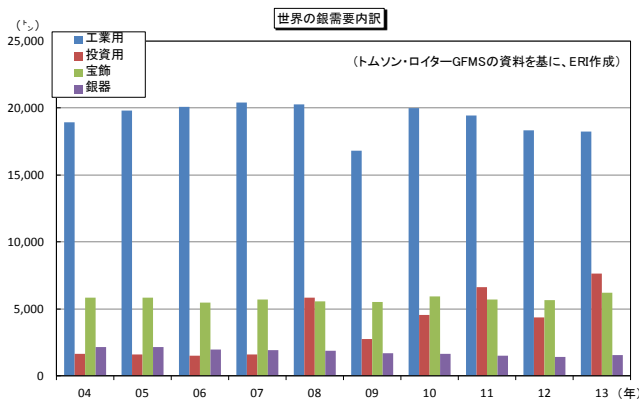
### ● 世界の銀需要



### ■ 銀需要、過去最大を記録

トムソン・ロイター-GFMS 社が公表した「シルバー・サーベイ 2014」によると、2013 年の世界の銀需要は工業用が伸び悩んだものの投資用、宝飾、銀器の需要が伸びたことを受けて前年から 13% 増加するとともに 2008 年の 3 万 3,489 トンを超える 3 万 3,626 トンと過去最高を記録。一方、供給量は二次供給の伸び悩みやヘッジがマイナス転換していることを背景に、2010 年以降 4 年連続で減少している。なお 2012 年は 1,583 トンの供給過多だったのに対し、2013 年は 3,204 トンの供給不足となった。

### ● 世界の銀需要内訳

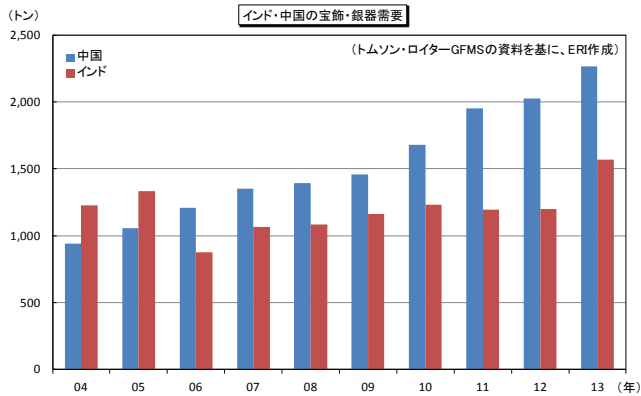


### ■ 銀価格下落で需要増加

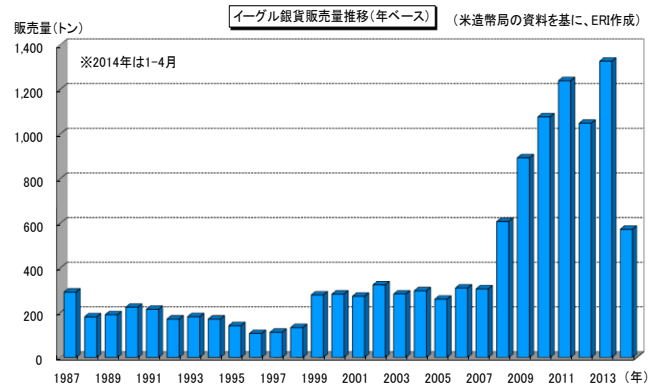
世界の銀需要の内訳を見ると、工業用は前年比 78 トン減の 1 万 8,245 トンとほぼ横ばいになった。

一方で投資用は同 3,306 トン増の 7,639 トン、宝飾は同 541 トン増の 6,183 トン、銀器は同 168 トン増の 1,555 トンとなっている。銀価格が大幅に下落したことが背景。

● インド・中国の宝飾・銀器需要



● イーグル銀貨販売量



● 銀 ETF 残高推移



■ 銀需要推移

宝飾・銀器需要はインドと中国の 2 カ国でその半分を占めるが、インドで前年比 370.1 トン増、中国で 239.5 トン増となったことが世界全体の銀需要の拡大に寄与したようだ。

また、イーグル銀貨の 2013 年の販売量は過去最高を記録した 2011 年の 1,240.05 トン(年間ベース)を 11 月に上回り、最終的に 1,327.34 トンまで増加するなど堅調に推移した。ちなみに 2014 年 1-4 月期販売量は 574.47 トンと過去最高を記録した昨年をやや上回るペースで推移している。

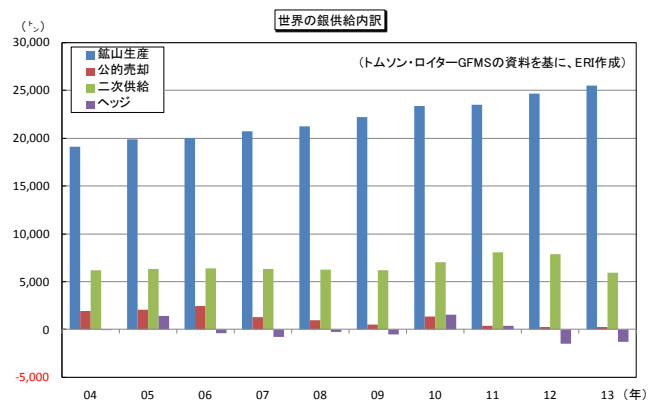
さらに、銀 ETF は 2013 年 7 月中頃を境に増加傾向が続いており、金や白金などの ETF と比較して相対的に堅調な推移が続いている。

■ 銀供給はヘッジにより減少

銀供給の内訳をみると、鉱山生産による供給は徐々に伸びており 2013 年は前年比 849 トン増加。一方、二次供給は伸び悩んでおり 2013 年は同 1,891 トンの減少となっている。

また、ヘッジ分については 2012 年にマイナス転換し、2013 年は 1,285 トンのマイナスとなっていることから、世界の銀供給量は減少傾向を示している。

● 世界の銀供給内訳



● NY 銀(週足、期近)に移動平均線(13 週、26 週、52 週)を合わせたもの



■ 上昇局面入りとなるかに注目

NY 銀(期近)は移動平均線(13 週、26 週、52 週)の下で推移し上値は重い動きとなっているものの、トムソン・ロイター-GFMS のアナリストであるアンドリュー・レイランド氏が「銀は金に比べ、はるかに堅調さを保ってきた。銀相場は 20 ドルを心理的に重要な節目とみる向きが多いため、これを割り込むと、市場では非常に値頃感があるとみられる」と述べている様に、下値は底堅い動きが続いている。

ただ、昨年 6 月 28 日に付けた安値 18.17ドルが下値のめどとして意識されているものの、仮にその水準を割り込んだ場合はストップスを巻き込み、一段の下落も想定される。一方、主要移動平均線(13 週、26 週、52 週)を上抜けた場合には上昇局面入りとなり、2012 年 10 月 1 日に付けた高値 34.445ドルと昨年 6 月 28 日に付けた安値 18.17ドルをフィボナッチ・リトレースメントで見た場合の 38.2%戻し水準である 24.387ドル、次いで半値戻しとなる 26.308ドルを試す動きとなることも想定される。

(5 月 22 日 ERI 森下 直紀 記)

本レポートは EVOLUTION 総研株式会社(以下「ERI」という)が情報提供を目的として作成したものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。本レポートは信頼できると思われる情報に基づき作成されておりますが、ERI はその正確性及び完全性に関して責任を負うものではありません。また、記載された内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。投資に係る最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。

Copyright © EVOLUTION RESEARCH INSTITUTE CO.,LTD All Rights Reserved.

※ 商品先物取引は証拠金による取引であり、商品市場における相場等の変動あるいは海外情勢や相場等の指標の変動により損失が生じることがあります。通常取引では投下資金以上の損失が生じることがあります。取引の額は商品により異なり、当社必要証拠金の額に対して通常取引が約10倍から約60倍、損失限定取引が約2倍から約8倍の額になります(先限ベース)。最初に預託する当社必要証拠金の額は商品により異なり、最低取引単位(1枚)当りの最高額で通常取引が200,000円、損失限定取引が950,000円です。通常取引ではその後の相場の変動により追加の預託が必要になることがあります。その額は商品や相場の変動により異なります。/取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品により異なり、最低取引単位(1枚)当りの片道最高(税込)で、通常取引の場合は対面取引10,152円、インターネット取引486円となり、損失限定取引の場合は対面取引5,400円となります。

(2014年5月16日時点)

※ 貴金属地金やコインには価格変動リスクがあります。売却の際に売却金額が購入金額を下回り、損失が生じることがあります。  
 ※ お取引の際は契約締結前交付書面等の内容を十分にご理解いただいたうえで、ご自身の判断と責任においてお申し込みください。  
 ※ 本資料は断定的判断の提供を行うものではありません。また、その正確性および完全性に関して責任を負うものでもありません。  
 一当社のディスクロージャー資料は、当社本支店およびホームページ、ならびに日本商品先物取引協会のホームページで開示されています。  
 お客様までご相談につきましては、当社本社内/営業管理部顧客サービス担当(03-5485-4049)、もしくは、日本商品先物取引協会/相談センター(03-3664-6243 <http://www.nisshokyo.or.jp/>)までどうぞ。商品先物取引業者(日本商品先物取引協会会員)